

統合国際深海掘削計画 (IODP) 会議報告書

提出年月日: 平成18 年8 月10 日

(ふりがな)

氏名: 巽 好幸

所属(職名): 海洋研究開発機構 地球内部変動研究センター地球内部物質循環研究プログラム

会議名	IODP SASEC
会議期間	2006年7月11日～12日
用務地(国・都市)	ワシントンD. C.
<u>目的</u>	
<u>会議内容及び報告事項</u>	
1. Introduction SASECにおいては、簡略版利害問題規程(COI)を適応する。ただし必要な場合には、正式番を遵守する。	
2. SASSECは、2006.7.12にWashington DCで開催された第1回会合のアジェンダを承認する。	
3. 権限のレビュー SASECは、その権限について、以下の修正(太字部分)を加えた上で、承認する。 マニフェスト: SASECは、IODP-SASにおける最上位委員会である。	
本委員会は、 a) IODPプログラムの評価及び査定を行うとともに、IODPの長期計画を行う。 b) IODP-MI BoGがリードエージェンシーの承認を得るためにIODP年次プログラム計画、予算を提出する前に精査し、それを承認する。 c) その他の地球科学プログラムとの連携を進める。	
5. 2007年度年次プログラム計画の承認 SASECは、2007年度年次プログラム計画を承認する。SODVのスケジュールについては、オペレーションタスクフォースの検討によって変更の可能性があるが、その場合は、その変更案を承認する。 (APPに関する議論のなかで、SASEC支援をIODP-MI ワシントンが行うことに対して、本来ならば他のSAS委員会と同様札幌事務所が行うべきである、との意見が出された。暫定的な処置として理解した)	

6. IODP 科学成果のレビュー

SASECは、短期科学評価(1-2年)と掘削EXPEDITIONの査定の実施を行ったSPCに感謝する。SASECは、引き続きSPCに本作業の実行を委託する。又SPC議長は、本作業における問題点がある場合には、SASECに対して報告などを行うこととする。

掘削EXPEDITIONの科学的成果に対する長期評価は、今後3年間は、毎年1回、最初の2年間のIODP掘削に対して実施する。評価委員は、IODP以外の2~4人の専門家、SASEC委員一人、SPC委員1人、IODP-MI代表者1人、プロポーザルの評価育成に携わった前SAS委員1人を含むものとする。委員の推薦はSPC議長が行う。IODP-MIは、上記活動における後方支援、業務支援を提供する。本評価は、それぞれのテーマに関連したシンポジウムにおける議論に基づいて実施されることが望ましい。

7. 科学諮問組織(SAS)の評価

SASECは、科学諮問組織を評価するために、川村氏(投票権無し)、Mike Bickle, Keir Becker, Jim Mori, David Divins(投票権無し)、そしてHans Christian Larsen(投票権無し)から成るサブコミティーを指名し、IODPがフェーズII に入ることに向けて、SAS活動が円滑に行われるための提言を求める。又サブコミティーは、IODPプロポーザルの評価が公平に行われるように、必要があれば提言を行ってほしい。サブコミティーは、SASEC2007年春期委員会において提言を提出すること。

8. ミッション型提案の実施

SASECは、ミッション型提案検討グループを設置し、掘削提案の活性化を図る上で、もっとも適切なミッション型提案の実効化(ミッション認定方法、ミッションチームの編成方法、ミッション提案の評価方法など)の検討を行う。又、本グループは、SAS内におけるプロポーザルの流れと評価方法について、必要に応じた変更も検討することとする。SASECは、IODP-BoGの勧告に従って、ミッション型提案検討グループ構成を、SSEP, SPC, SASECそしてIODP-MIの代表者、計4人とする。SASECからの委員として巽好幸氏を指名する。

ミッション型提案検討グループ、8月開催のSPC会議、次回SASEC会議でミッション提案実行計画が承認され、2007年中にミッション型提案が実行されるべく、計画を作成すること。

9. 長期科学計画

SASECは、巨大海台掘削によって、マントル活動とその地球環境への影響について、重要な成果が得られるであろうことを認め、今後の研究計画、特に効果的な掘削戦略の計画立案を目指すWSの開催が必要であることを認識した。しかしながら、WS開催を承認するに先立ち、WS提案者が掘削計画の実効化にむけて、どのようなWSを開催したいのかを具体的な内容を示すべきであると考え。

SASECは、IODP-MIに対して、「海洋掘削による地質災害への取り組み」を、2007年度ワークショップとして開催することを提言する。

「海洋掘削による地質災害への取り組み」ワークショップ実行委員会に対するSASECからの指示
海洋地質災害の研究は、重要な科学テーマ、社会問題であるにもかかわらず、IODP初期科学計画では触れられていない。提案者は、3日間の国際WSを提案しており、津波を引き起こす原因になる危険な地滑りに関するプログラム、海洋域における記録に関するプログラム、研究に関する議論を提案している。SASECは、これを、2007年IODP-MIワークショップとして推薦する。提案者は、WSを危険な地滑り、津波を引き起こす変形の議論に限定している。SASECは、WSにおいてさらに広い視野で海洋掘削によって取り組むべき海洋地質災害のテーマを考察し、その上で、地質災害と津波を引き起こす変形に焦点をあてるのが妥当であると考え。

SASECは、SASの最上位委員会として、2008年末までに初期科学計画の更新を計画している。更新に必要な提案・提言は、2006年、2007年に開催のWSとシンポジウムでなされるであろうし、コミュニティーからの意見は、National Office, 科学掘削ジャーナルの記事、EOSの広告、AGUのタウンミーティングなどにおいてそれを喚起する。更新に向けた小委員会は、SASEC2007年春の会合において設置し、又、2008年夏までには、最終原稿が完成することを目指す。SASECは、その2008年夏会合において、最終案を評価する。評価を、SASEC内のみで行うか、外部評価を行うかは、今後検討する。

10. 科学社会への通信/アウトリーチ

SASECは、木村氏、ミラー氏に、KRYC氏の協力を得て、来月中に優れた科学者によるアウトリーチ計画の実施方法をSASECに提出することを要望する。

SASECは、「北大西洋と寒帯気候の変化」を2007年IODP トピカルシンポジウムの開会トピックとして採用する。又、Gerald Wefer氏を本件に関するSASECリエゾンとして任命する。

11. 他の地球科学イニシアチブとの連携

SASECは、ICDP-IODP合同会議の開催に向けてBecjkr氏を責任者として指名する。

SASECは、IODP Observatory TaskforceとORIONESONET、DONETなどのnational observatory計画に対するリエゾンに、長尾氏とHumphrisを指名する。

13. SASとIODP-MI委員会のコミュニケーション

SASECは、IODP-MI TASK FORCEのリエゾンとして以下のSASECメンバーを指名する。

QAQC Taskforce : Hayes氏

Observatory Taskforce: Humphris氏

Operations Review Taskforce: Miller氏

Operations Taskforce; Becker氏

Education and Outreach Taskforce: 巽氏

Data Management Taskforce: 河野氏

Engineering Development Taskforce: 木村氏

14. SASECのメンバーローテーション計画

SASECは、national program office に用意されたガイダンスに乗っ取って以下のローテーションに同意する。

日本: 河野氏-1年間、木村氏-2年間、巽氏-3年間

米国: Millers氏-1年間、Humphris-2年間、Hayes-3年間

ECCORD: Bickle-2年間、Wefer氏-3年間

SASECは、巽氏が来年議長になる際は、Becker氏にUSACが代わりの副議長を指名するよう依頼する。

SASECは、Humphrisと巽氏にUSACとJ-DESCがSASECへ代替要員の選定を要求するよう依頼する。

16. SASECは、次回会議を2006年11月1-2日に日本で開催することに同意する。